

2019.05.19 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート  
500Days To Go! フェスティバル取材



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回のレポートは、2019年3月に開催された「500日前イベント」についてです。  
それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

---

東京五輪まで残り500日を切りました。それにあたって、日本では今、東京五輪に関する様々なイベントが行われています。私たちジュニア記者も、東京五輪に関するイベントの1つ「500Days to go!」フェスティバル〜東京2020まであと500日!〜という新横浜公園一帯で行われている、イベントに参加してきました。

広範囲でおこなわれていて、英国ホストタウンに関する展示もありました。たくさんあるメニューの中から子どもたちが選んだのは、メインステージでのコンサート。デュオアーティスト「アルケミスト」が岡村小学校の子どもたちと一緒に、小学生と一緒に作った歌「あの空」披露しました。NHK2020 応援ソング「パプリカ」を歌う小学生5人組ユニット「Foorin（フォーリン）」と大会マスコットによるステージなどを楽しみました。



体験コーナーでは、主にパラスポーツに関する体験をしました。スポーツ義足を体験したり、車椅子バスケットを体験したり。こういった体験をすることで、より競技を身近に感じ、応援に熱が入りそうです。



日産スタジアムで、ステージイベントを楽しみました。最初にアルケミストスペシャルステージ with 岡村小の人たちの歌を聞きました。とても素敵でした。ミュージシャン、アルケミストの2人組の1人は、手に障害を持っています。手に障害を持っていることを隠すことなく、堂々と歌っていて、とてもカッコよかったです。その後、「パプリカ」を一緒に踊ろう！とステージにも参加しました。ステージを見終わった後、車いすバスケット体験をしました。車いすに乗っているため、手の力だけでシュートを決めるのは、結構大変でした。でも慣れると、シュートする回数が増えてきて楽しくなりました。テレビなどで、活躍している選手は、軽々しくやっているのに、本当はこんなに大変なのかと実感しました。

草郷 緑彩

私は、目の不自由な人が後ろに乗る、2人乗り自転車を体験しました。私が後ろに乗り、係の人が前で運転してくれました。途中、「目をつぶってみて」と言われ、目をつぶってみました。カーブで、体が揺れて怖かったです。目が見えない人は、前の人をみないで、息を合わせていることがすごいなと思いました。

片井美礼

障がい者スポーツは普段あまり見る機会がありませんでした。イベントでは、義足、車いすレース、車いすバスケットなどの沢山の競技の体験ができました。足に義足をつけて歩く体験をしました。弾む感じがして歩きずらかったです。車いすレース体験では、競技用の車いすに乗って、その場でタイヤを回し、スピードを計測してもらえました。車いすを早く回すには何度もタイヤをまわさなければいけません。そのためとっても疲れます。僕は13.7キロを出すことができましたが、終盤はとっても辛くなり、7キロしか出せませんでした。

鈴木翔大

一番、心に残っている体験は、ゴールに向かってボールをけて何キロ出るか、はかってくれる体験です。3回やった結果、48キロでした。その日の最高記録は、87キロだったのでもう少し伸ばしたかったです。他にも、車いすバスケットや目隠しマラソンなど楽しそうな体験がいっぱいありました。

藤江凜太郎

とてもたくさんのイベントが行われていましたが、私が一番印象に残ったのは、義足体験です。実際に義足をつけて歩いてみると、とても重く少し違和感を感じました。足に障害のある選手は、この重さで歩いたり、走ったりしているんだと考えるとすごいなと思いました。また、車いすバスケットの体験もしました。車いすに乗ったまま、シュートを打ってみるとなかなかシュートが打てませんでした。シュートがうまく打てた時はとても嬉しかったです。オリンピックはもちろん、そして、パラアスリートの人達を、これからも全力で応援したいです。

山田真白





## つづきジュニア編集部って？

つづきジュニア編集部は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、取材に行き、記事を書いています。

2019.06.28 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

**イギリス選手がやってきた！～「2018 ジャパンパラ水泳競技大会」を取材しました。【2018 年 10 月】**



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集部」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回のレポートは、2018 年 10 月に開催された「2018 ジャパンパラ水泳競技大会」についてです。それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

---

## ジュニア記者取材レポート：イギリス選手がやってきた！～「2018 ジャパンパラ水泳競技大会」

2018 ジャパンパラ水泳競技大会が北山田の横浜国際プールで行われ、ジュニア記者 12 名が応援に行きました。会場でもらったプログラムをみながら、どんな選手が出ているのかをチェック。イギリス選手がでるとみんなでイギリス国旗を掲げて「GO GB」と叫び応援、それ以外のときには「ニッポン、チャチャチャ」と楽しく応援し、盛り上がりました。イギリス選手にもきっと記者たちの応援が聞こえたと思います。

それぞれの記者たちの感想です。

僕は、イギリスの選手が出場するたびに新記録を達成していて驚きました。これからの 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、もっとイギリスとの絆を深めていきたいと思いました。

久保心之介

ジャンパラ競技大会は、手の不自由な方や足の不自由な方が活躍していました。選手みんなが頑張っている大会でした。最下位でも一生懸命泳いでいる姿や、障がいがあったとしても頑張る姿を見て、すごいなと思いました。

これからも選手に頑張ってもらいたいです。

山田咲幸

今回のジャパンパラ水泳競技大会で、一番心に凝のこったことは、片手だけで泳いでいた選手のことです。片手だけでも関わらず 100 メートルをみごとに泳ぎきり、スピードも私と同じくらいでおどろきました。この大会を見ることができよかったです。

四方あかり

私は、今回初めて、障害者の方が参加されているスポーツを見に行きました。なかなか「生」では見れない貴重な体験だと思ったので、始まる前からワクワクしていました。

出場国は、「アメリカ」「カナダ」「メキシコ」「コロンビア」「イギリス」「スペイン」「オーストラリア」「ニュージーランド」「日本」の 9 か国で、どの国のどの選手も泳ぐのがとても速くて、びっくりしました。さらに、今日の大会で大会新記録や日本新記録という素晴らしい記録を出された方も多くいらっちゃって、「わあ、すごいなあ！」と感激しました。選手達は泳ぎが速いだけでなく、泳ぎのフォームもきれいで、自分も見習いたいなと思いました。

私が特に、注目した団体は、イギリスです。（もちろん日本チームも応援しています！）イギリスチームは、日本の環境になれるためのオリンピック事前キャンプをしますが、その場所として都筑区が選ばれました。

日本の皆さんが、日本チーム同様に温かい目でイギリスチームに声援「GO GB（GREAT BRITAIN=英国の略）」と送ってあげたらイギリスの方たちも、もっと日本が大好きになると思うので、みんなで応援したいと思います。

田中希和

午後に行われた決勝の試合を見に行きました。まず最初に驚いたのが、客席にかなりの人がいたことです。片側は企業の方々がいて、もう片側には一般の方が入っていましたが、年配の方から小さな子どもまでさまざまな方が見に来ていました。

この写真は、女子 100 メートル自由形の S 6 の表彰式の写真です。サマー・ニュートン メイジーさんが表彰台にのぼりました。小柄であるにもかかわらずパワフルな泳ぎで思わず応援してしまうような泳ぎでした。



次は同じ種目の S 10 の表彰式です。マルーリー ザラさんは私の 1 つ歳が上で、まだ高校生なのに大会に出ていると知りとても驚きました。男子の 50 メートルバタフライでは小学生や中学生も出場しており、また 30-40 代の方も出場していて、年齢層の厚さを感じました。





これは男子 100 メートル自由形の sS12 の表彰式です。クレッグ ステファンさんが大会新記録で優勝を飾っていました。視覚障害でありながらも一般の大会さながらの泳ぎで圧倒されました。同じ種目の 1 組目では、背泳ぎで出ている選手もいて、自由形=クロールという概念にとらわれず、自由に泳いでいるのを見て、こういった考え方もあるのだなと感じました。



日本での開催ということで観客はほとんどが日本人でした。しかし、日本人、外国人、と区別せずに皆が応援していて、一体となって応援できるのはパラスポーツの良いところなのではないかと思いました。

また、今回の結果を見ると、外国人の方も多く優勝していましたが、日本人の選手もかなり表彰台にのぼっているなと感じました。パラリンピックに向けて、日本人がメダルを狙える競技なのではないかと思いました。世界にはもっと早い選手がいて、世界の壁は厚いけれど、2020 年に向けて、日本人の選手、さらにはさまざまな国の選手にも目を向けて応援をしていきたいです。

中島万賀

取材：久保 心之介、桑野 煌己、高橋 那菜子、山田 咲幸、山田 真白、四方 あかり、松岡 莉香、森 結里、長谷川 絢美、田中 希和、中島 万賀

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、取材に行き、記事を書いています。

2019.10.01 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## 英国代表チームが横浜国際プールにやってきた！GOGB!! がんばれ、英国！【2019年7月】



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集部」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回のレポートは、2019年7月に実施された英国水泳代表チームのプレ事前キャンプについてです。それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

---

### ジュニア記者編集取材レポート：英国代表チームが横浜国際プールにやってきた！GOGB!! がんばれ、英国！

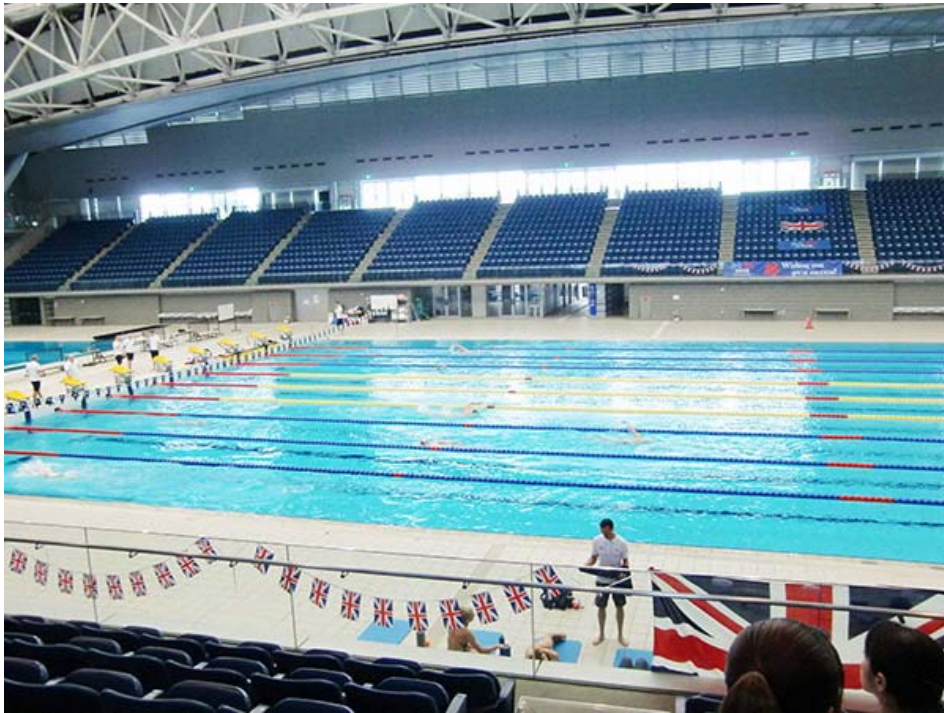
7月12日～28日に韓国光州で開催された世界水泳2019に出場する英国選手が横浜国際プールで練習するところ、そして最終日に地元の人たちと交流する送迎レセプションを、取材させていただきました。

#### ｜ 7月13日英国プレ事前キャンプ：練習のようす

私たちジュニア記者は、プールサイドで練習を見させていただきました。他にも中学校の水泳部など、地元の若者たちが集まって熱心に見学していました。

施設の方のお話によると、プールの温度が27度と低めにしたり、水も深くしたりして、競技用に合わせてプールのコンディションを調整します。今回、選手は、毎日午前中と午後2時間、9日間続ける練習をします。





観客席から、練習の様子をずっと見せてもらいました。選手たちは 立て続けに 1500M を泳いだり、片手を上げたままクロールを泳いだり、また4人で息を揃えてバタ足をしたりするなどの練習をしていました。基本的にはゆっくりとしたペースで泳いでいましたが、タイムを計る時には、一転してその倍くらいのペースで泳いでいるように見えました。ゆっくり泳いでいるときには、見ている私たちに手を振ってくれたりして、とてもうれしかったです。

練習のあと、インタビューに答えてくれました。記者たちは、がんばって調べてきた英語で質問しました。答えは通訳の方に教えてもらいましたが、選手に「英語上手だね」とほめられました。



## | 選手にインタビュー！

Q.国際プールのプールはどうですか？

A.とても優秀な施設のスタッフがいてくれて、コンディションをよくしてくれるので、とても泳ぎやすく、すばらしいです。

Q.一日どのくらい泳ぐのですか？

A.練習のときには、だいたい1日12 km～14 kmを泳ぎます。

Q.水泳をはじめたきっかけは何ですか？

A.12歳の時、憧れの水泳選手がいたことから、水泳をはじめたいと思いました。

Q.水泳のどういうところが面白いのですか？

A.水泳をするようになって、大会などで外国に行くことが多くなりました。外国旅行がたくさんできる楽しみもあります。

Q.スランプなどのとき、どのように気持ちを切り替えますか？

A.上手く泳げなかったとき、どうして出来なかったかを考えて、1からやり直しています。

Q.選手の皆さんは泳ぐ前にどんなものを食べていますか？

A.選手のみんなはそれぞれ食べるものが違います。私はプロテインと野菜をよく食べます。

取材) 菊池直希 古林沙羅 森結里 清水一葉 清水麻緒 石嶋愛華 足立理子 長谷川絢美  
田中希和 鈴木翔大

## | 7月16日歓送レセプション





レセプションでは、始めに国際プールで練習しているコーラスグループが、「ビリーブ」という曲を歌って選手たちをむかえました。選手たちが、「練習したことを発揮して成果を出せることを信じている」という理由でこの曲を選んだそうです。

選手たちが全員イスにすわると、北山田小学校が選手ひとり一人に宛てて書いた、メッセージカードを手渡し、プレゼントしました。それは、四季の森小学校のみなさんが、横浜の花を押し花にしてカードにしたものに、北山田小学校のみなさんがメッセージを書いたものです。

次に、東山田小学校から「世界の約束」という曲をリコーダーで演奏しました。スポーツを通して世界の平和を、という願いを込めてこの曲を選んだそうです。最後に英国選手達からお礼の言葉と、額縁にはいったメッセージボードをいただき、全員で集合写真を撮りました。

選手達が、退場するとき、こどもたちみんなで花道のトンネルを作りました。選手達は、みんなにタッチしてくれました！水泳選手の人たちは、みんな手が大きく、私たちの顔の一つ分はありました。背も高くて、すごいなーと思いました。

取材) 月岡結菜 古林沙羅 草郷緑彩 長谷川絢美 田中こころ 野口明日美 廣田心乃



## | ジュニア記者の感想

すごい距離を泳いでいるのに、疲れを見せない姿は本当にすごいと思いました。これがアスリートといわれる人たちなんだと感動しました。ミニレセプションでは、小学生から手作りのプレゼントをもらとうれしそうにしていました。世界水泳では練習の成果を発揮して頑張ってください。

小学6年 長谷川絢美



レセプションでは、選手の入場を、歌で出迎えました。選手はみんな、背が高く、用意したパイプイスが小さく見えました。身長が高いとゴールするのも速くタッチできるのかなと思いました。英国選手も日本の選手と同じように応援したいです。2020年に向けて練習をがんばってほしいです。小学5年 月岡結菜

選手たちが、レセプションのギリギリまで練習して疲れていると思うのに、子どもの作ったトンネルをくぐる時、優しい笑顔をみせてくれたのが、印象的でした。ぜひ、世界水泳でも、頑張ってください。

小学5年 野口明日美

英国選手のチームワークがよかったです。一番チームワークが良いと思ったのは、飛び込みです。もし飛ぶ人がミスをしてしまったら練習のサポートをしている人が怪我する、そんな構図でした。それを見て私は「相手を信頼しているな」と思いました。私も練習することがあったら、協力していくことが大切だと改めて感じました。

小学6年 足立あやこ

レセプションの終わりに、英国選手達を通りかかったので、思い切って「GO GB!」と後ろから叫びました。そしたら選手達が、「Oh,Thank You!」と言ってくれたので、うれしかったです。

小学6年 草郷緑彩

英国選手と交流出来る場に参加できたことは本当に良い経験だったと思います。言葉を超えて会話するという楽しさや英国に対する興味を持てたので、今後は、世界水泳や東京2020大会などを通して、もっと英国について知る機会を作りたいです。

小学6年 田中希和

今回、英国チームの取材に行くととても感激しました。練習を見学していると、とても長い時間泳いでいるのに、自分たちに手を振ってくれたり、質問にやさしく答えてくれたり。また、小さな子には選手のカードを配ってくれて、ハイタッチをしてくれました。このように優しくしてくれる英国チームの練習を「GO GB!」の旗を振って応援できたのがとても嬉しかったです。来年の東京オリンピック・パラリンピックでは、英国チームも応援して、チームに貢献できるようにしたいと思いました。

小学6年 菊池直希

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港150周年・都筑区制15周年の節目にあたる2009年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学5年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、取材に行き、記事を書いています。

2019.10.07 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## 日本の中のイギリス ～ 「英国大使館」 を取材しました！ 【2018年8月】



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回のレポートは、2018年8月に取材した「英国大使館」についてです。

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

---

### 日本の中のイギリス～「英国大使館」を取材しました。

都筑区は2020年オリンピック・パラリンピックのとき、イギリス代表チームの「事前キャンプ地」になることが決まりました。今回は、つづきジュニア編集局では、もっとイギリスを知りたい、2020年に自分たちがホスト地としておもてなしができることってなんだろう？という思いから、東京都千代田区にある駐日英国大使館を取材させていただきました。





まず入っておどろくのはその広さ。1人で行ったら迷子になりそうです。中にはアニメに出てくるようなドングリの木や家があり、なんともかわいらしかったです。大使館の敷地内には桜の木などが多く植えられていて、中にはエリザベス女王が植樹をした、という木もありました。他にも大使館職員のためのプールなどがあり、おどろきの連続でした。案内してくれた大使館の方から、「みなさんの中でイギリスに行ったことがある方はいますか？」という質問があり、ジュニア記者からは手があがりませんが、「いえいえ、いまもうここは実はイギリスなんですよ」と言われて、みんな、わーっとなりました。確かに建物や景色が、すっかりイギリスにいるようでした。



英国大使公邸の中は真紅のカーペットがしかれ、頭上ではシャンデリアが光っています。応接室には英国政府のアートコレクションから借りている絵画や大きなだんろがあり、まさに「お城」の中のような感じでした。素敵な家具、きれいで神秘的なオブジェなどがあってとても感動しました。

1階はお客様を迎える場所になっていて、毎日のように会合などが行われているそうです。日英関係のサポートや日本にいる英国の方々への援助を行っているこの大使館は1875年にこの場所につくられ、大使公邸は1931年に建て替えられたもので、大使はここに住んでいらっしゃるそうです。





私たちは、英国大使館のすてきな広間で、アフタヌーンティのおもてなしをうけ、本格的な紅茶とビスケットをいただきながら、インタビューさせていただきました。

---

## ここからは、記者たちからのインタビューです。

インタビュー相手：**オリンピック・パラリンピック参事官 Greg Mulheirn (グレッグ・マルハーン)**さん

宮下 敦行：なぜ日本の大使館で働こうと思ったのですか？

答え：英国政府の中でも外務省で働いていることで、色々な国に行けるチャンスがありました。たくさんの国がありますが、とりわけ英国と関わりの深い日本で働けるのは実に魅力的でした。今は、毎日日本食が食べられるのが楽しみです。

四方あかり：外国の方から見た日本人の印象を教えてください

答え：日本人は、細かいところによく気がつき、物事を完ぺきにこなすところがすばらしいですね。

田中希和：ロイヤルファミリーの方々は東京五輪に来られるのでしょうか？

答え：まだどなたが来られるかは分かりませんが、ロイヤルファミリーの中に元五輪の馬術の選手の方がいるので、来日されるかもしれません。

中島万賀：2020年、オリンピックのときにイギリスの選手が日本に来た際、どのように日本人を紹介しますか？

答え：日本の文化を紹介します。日本人はシャイだよということも紹介しますね。

久保心之介：イギリス人の人たちにとって、日本にはどのようなイメージがありますか？

答え：イギリスでも日本の武術や漫画、和食などが人気であり、高い技術と伝統的な文化が共生していることが日本の特徴です。また日本は交通も正確で、とても便利です。

藤江凜太郎：2020年のオリンピックで、横浜国際プールにイギリスの選手が練習にくるようになっていますが、何か私たちでも手伝えることはありますか？

答え：そう思っていることを知ったらイギリスの選手は喜ぶよ！！日本の選手を応援しながらイギリスの選手も応援してくれるととても喜ぶと思います。

清水麻緒：イギリスで最も人気のある観光地はどこですか？

答え：ピーターラビットの舞台にもなっている、湖水地方が人気です。他にも様々な観光地がたくさんあります。ぜひイギリスに来てみてください。

菊池直希：オリンピックが終わったあとも、都筑区との交流はありますか？

答え：今はオリンピックが終わった後にイギリスと都筑区でどういう交流ができるか具体的な計画はまだないが、これから2020年に向けてたくさん選手が来たり、また大会に参加するなかでたくさんの文化交流が生まれて、それがオリンピックの後に続いていくよう願っています。



## 記者たちの感想

今回、英国大使館の取材に行き、大使館の中の様子や、参事官のお話を聞くことによって、イギリスと日本の強い結び付きを感じました。私達も選手を迎える側として、イギリスの文化を理解しつつ、日本の文化を伝えられるようになにか出来ればいいなと思いました。 中島万賀

大使館の中に入ったらもうイギリスだということに驚きました。たくさんの職員の人たちが、声をかけてくれたり、建物の説明をしてくれて、とても分かりやすかったです。最後には参事官の方と名刺交換をすることが出来てうれしかったです。 菊池直希

イギリスでは、日本食や漫画が人気だそうです。日本の技術が優れていて、文化と祭と技術がまざっている所以日本は人気だと言っていました。オリンピックのときには、イギリスを応援したいと思います。 小森志穂

英国大使館に行ってみて予想以上に庭が広くて驚きました。

他にも、プールやテニスコートがあり私も住んでみたいなと思いました。 清水麻緒

僕は英国大使館に行って、実際にイギリスに行ってみたくなりました。僕の友達に以前ロンドンに住んでいた子がいて少し興味を持っていましたが、今回、大使館に取材をして、イギリスへのイメージが湧いてきました。2019年、横浜で開かれるラグビーワールドカップや、2020年東京オリンピックではイギリスの選手たちも活躍するので、選手の応援だけではなく、日本に観光に来たイギリスの人たちにもなにかサポートができればいいなと思っています。 久保心之介

英国大使館では、想像以上に警備が厳しいことに驚きました。そして、敷地の広さが学校1つ分もあることや、大使の家が敷地内にあることにもびっくりしました。 桑野煌己



私は英国大使館、イギリスに行かれてとても嬉しかったです。イギリス風のビスケットや紅茶がすごく美味しかったです。質問は、恥ずかしくて出来なかったけれどみんなの質問文やその答えが知れて良かったです。貴重な取材ができてとても嬉しかったです。 片井美礼

私は駐日英国大使の家に入ったとき、とても広く、ゴージャスでいいなと思いました。しかし暮らしは普通の人と同じだと感じました。

取材するときに、紅茶とビスケットを食べながら取材を受けたのですごく贅沢な気分になりました。おじょうさまになった気分になりました。 草郷緑彩

この取材を通じて、英国に対する興味がより深まりました。皆さんも、英国のことをもっと知ろうと思いました。 宮下敦行

英国大使館という普段入れないところにいれてもらい、すてきな建物や中の装飾など、すてきで驚きの連続でした。2020年の東京オリンピックで、日本とイギリスの友好関係がさらに深まるとよいですね。 四方あかり

取材の際に、シェフさん手作りの美味しいビスケットと美味しい紅茶を頂きました。本当にすてきな空間で感動しました。今回は貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。 田中希和  
ぼくは、イギリスのことについてあまりしらなかったのでインターネットで調べたり、友達に聞いたりとイギリスのことについてできる限り調べてから取材にいきました。一番びっくりしたのは、大使館が広いことです。駅から大使館が見えたのに門まで行くのに5~10分かかったからです。そして中に入ってもすごく広くてとてもおしゃれなことにびっくりしました。 藤江凜太郎

取材：宮下敦行、四方あかり、草郷緑彩、藤江凜太郎、田中希和、片井美礼

桑野煌己、久保心之介、清水麻緒、中島万賀、小森志穂、菊池直希、長谷川絢美田岡美優、竹下奏

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港150周年・都筑区制15周年の節目にあたる2009年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学5年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、取材に行き、記事を書いています。

2019.10.19 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## 英国と横浜をつなぐ親善大使「ひつじのショーン」パネル&横浜国際プールを取材しました！



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回のレポートは、ひつじのショーンパネルと横浜国際プールについてです。

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

---

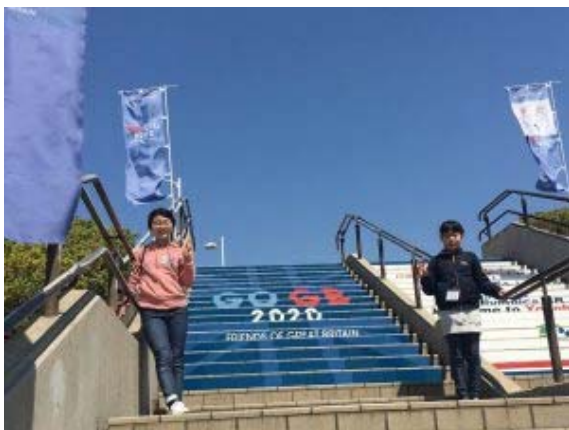
横浜市は東京2020大会の英国のホストタウンです。大会を盛り上げるため、英国のアニメ「ひつじのショーン」に親善大使になってもらうことになりました。6種類のパネルがデザインされ、そのうち2つのパネルが、都筑区役所と横浜国際プールにおかれています。今回私たちは、GOGB取材として、パネルを見に行ってきました。

都筑区役所では、区役所関連の展示があるときには1Fホールに展示されますが、普段は5Fの地域振興課の窓口近くに置いてあります。



国際プールでは、メインエントランスとメインプールの間の広いフロアにパネルが置いてありました。とてもかわいらしいパネルで、記念撮影にはぴったりです。

館内には、イギリスについてのクイズがパネルで展示されていたり、パンフレット等も置いてありましたし、北山田駅から国際プールに登る階段には、のぼり旗と階段にGOBGと書かれていました。ひつじのショーは昨年の都筑区民まつりのときには、ショーをしてくれて盛り上げてくれましたが、これからも英国と日本をつなげるための講座やイベントがたくさん企画されているそうです。楽しみです。





国際プールでは、今年の夏、イギリス選手が事前キャンプをすることが決まっています。忙しい選手の方たちと交流ができるかどうかは、わかりませんが、もしもインタビューできたら、ぜひしてみたいです。国際プールのスタッフの方に国際大会などを行うときの水泳競技の水温について伺ってみると、「季節によって水温を変えている。一般の方の温度よりも競技のときには低い温度に保つように調整している」との答えでした。私は1年中、一定の温度を保っていると思いましたが、予想外の回答でした。今回の取材でイギリスにさらに興味を持つことが出来ました。都筑区民のひとりとして、オリパラを盛り上げていきたいです。

取材：四方あかり、田中希和

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、取材に行き、記事を書いています。

2019.12.26 事前キャンプを知ろう

『日本財団パラアリーナ』を取材！ハリー王子と交流しました！  
【2019 年 11 月】



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回は、日本のパラスポーツの拠点である「日本財団パラアリーナ」を取材しました。

また、この日はちょうどラグビーワールドカップ 2019TM 決勝戦（11月2日横浜国際総合競技場開催）のため来日された、英国王室のハリー王子がパラアリーナを訪問されることになりました。ハリー王子のご臨席を知らなかったジュニア記者は、突然の訪問に驚きながらも、しっかりとパラアリーナを取材してくれました。

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

みなさんは来年開催される東京 2020 オリンピック・パラリンピックを見に行きますか？

私たちは、お台場にある『日本財団パラアリーナ』に取材に行きました。

『日本財団パラアリーナ』は、東京 2020 パラリンピック競技大会に向け、競技の強化やパラリンピックのことを多くの人に知ってもらうために、建設されました。このパラアリーナは、パラリンピック日本代表選手の合宿に使われたり、クラブチームの練習場所として利用することができたりします。また、海外の選手の方が日本語や日本文化を学ぶこともでき、全国的にも数少ない貴重な施設です。

まず、中に入ってみるとそこには巨大なアート作品が。そのアート作品はレゴブロックでできていて、香取慎吾さんがデザインしたそうです。この作品には、スカイツリーや東京タワーがあらわされていて、まちも含めてみんなで一つになろうという気持ちが感じられました。



施設には、ユニバーサルデザインが取り入れられていて、誰にでもわかりやすいようになっています。点字ブロックやスロープ、車いす同士でもすれ違える幅の通路など、完全にバリアフリー化されています。ドアのほとんどは幅が広くスライド式になっていて、競技用車いすでも通りやすいようになっています。実際、私たちの近くでも車いすに乗った方がスルスルとスムーズに通行していました。



私たちは、「アリーナ」というところに入りました。そこは体育館のようになっていて、中では車いすラグビーや、ポッチャの練習を行っていました。ポッチャとは、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う競技です。選手は、一生けんめい狙いを定めてボールを転がしていました。すごく真剣に取り組んでいるようすが伝わってきました。

車いすラグビーも初めて見ました。ボールを持ったら40秒以内にトライしなければいけないなど、他にも細かいルールがいくつかあるそうです。選手が乗っている車いすは、よく見ると私たちが普段見たことのある車いすとは違い、タイヤがハの字に取り付けてありました。そして、攻撃と守備でもまた車いすの作りが違っていました。選手同士がぶつくと、ドーン！という大きな音がアリーナにひびいていました。私は少しこわい競技だなと思いました。選手のみなさんはぶつかったり倒れたりしてこわくないのかな、痛くないのかな、と思いました。

そして、私たちが練習のようすを見ていると英国のハリー王子が、このパラアリーナに入ってきたのです！そして、私たちにも話かけてくださいました！

ハリー王子はイングランドのラグビー協会の名誉総裁を務めています。とてもスポーツ振興に熱心な方で、今回はラグビーワールドカップの決勝を見るために来日されました。



## 子ども記者の感想

僕の中でのハリー王子は、スーツを着てボディーガードに守られている、堅いイメージがありましたが、王子はカジュアルな服装で、ボディーガードもおらず、意外でした。

僕の斜め前に座り、周りの人に笑顔で接していて、僕にも「英語は話せますか？」と声をかけてくださいました。僕が「少しだけできます」というと、「それだけで十分だよ」と優しく答えてくれました。



いつもテレビで見ている王子が近くにいる、とても感動しました。しばらくすると王子は車いすラグビーやボッチャのほうに歩いていきました。王子が選手たち一人一人に声をかけている姿を見てやさしい方だなと思いました。ハリー王子と会い、とても親しみがわきました。オリンピック・パラリンピックでは、日本のチームも英国チームも応援しようと思いました。スポーツの魅力は無限大！来年が楽しみです。 小6 菊池直希

ハリー王子は、車いすラグビーや、ボッチャを熱心に見学していました。見学されている時、練習していた選手や、取材していた私たちにも楽しそうな笑顔で話しかけてくださりました。予想以上に優しく楽しそうな笑顔に感動しました。 小5 野口明日美

ハリー王子は背が高く笑顔でいねいにお話ししてくれました。私は、ハリー王子に「学校にプールはありますか？」と聞かれました。その事が気になりあとで調べたら、イギリスの学校にはあまりプールがないということがわかりました。日本の学校にはプールがあるのが普通なのでびっくりしました。私は、今は英語を話せないのので今回はハリー王子とお話しできませんでした。これから英語を勉強したいと思います。そして外国の人たちと一緒におしゃべりしたいです。 小5 月岡 結菜

パラアリーナの中に王子が入ってきた時に、ガラッと空気が変わって少しドキドキしたけど、ハリー王子は、私たちと話すとき、自分がしゃがんで目線を同じにして話してくれました。私は王子と会話と言うより、「心の優しい人」と会話しているようで温かく心が包まれました！ 小5 古林 沙羅

ハリー王子は、僕たちジュニア編集局のこどもたちに、「hello！」と声をかけてくれ、とてもフレンドリーな方でした。僕は王子の「今夜のラグビーでどちらの国が勝つかと思う？」や「学校にプールはありますか？」などの質問に答えました。来年、横浜にイギリスの選手が来るのがとても楽しみです。小6 藤江 凜太郎

私はハリー王子に自己紹介をすることができました。ハリー王子は笑顔でとてもフレンドリーに話してくれました。ボッチャの選手や車いすラグビーの選手のみなさんとも楽しそうに話していました。思いがけないハリー王子との交流に私はとてもドキドキして感動しました。貴重な体験ができました。 小5 廣田心乃

ハリー王子は私たちと一緒にパラリンピック競技のボッチャと車いすラグビーを見学されました。その後、全選手の近くに行って楽しそうに熱心に話をされていました。ハリー王子は背が高く、やさしい方でたくさんの方に話しかけていました。僕にも少し話しかけてくれました。とてもうれしかったです。少ししか会話できなかったのですが、もう少し長く話がしたかったです。 小6 鈴木翔大

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、

取材に行き、記事を書いています。

2019.10.19 2020.03.31 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## ★ようこそ！横浜へ ①みなとみらいおすすめスポット編



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集部」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回は、視点を変えて、英国代表チームのみなさんにぜひ訪れてもらいたい、横浜市や都筑区のおすすめスポットを紹介させていただきます。

今は外出がなかなかできない時期ですが、英国代表チームのみなさんが来年事前キャンプにいらしたときは、ぜひ参考にいただければと思います！

それでは、ジュニア記者によるレポートをお楽しみください。

---

### ■みなとみらいおすすめスポット編

・カップヌードルミュージアム 山本 承太郎（やまもと じょうたろう）

突然ですが、忙しくて夜遅くに帰宅したり、ふと小腹が空いていることに気づいたりしたとき、あなたはどうしますか？いちから自分で料理を作りますか？それとも仕方なく我慢しますか？私だったら、短時間で楽ちんにおいしい食事が得られるインスタントラーメンを食べます。

ということで、そんなインスタントラーメンについて楽しく学べる“カップヌードルミュージアム”を紹介したいと思います！



そもそもカップヌードルとは、日本の食品加工会社である日清食品が発売している即席麺・米飯のブランドであり、当時世界初のインスタントラーメンを開発した安藤百福社長の発明記念館がカップヌードルミュージアムなのです。

館内に入ってすぐに目にとまるのが、おっきなカップヌードルのオブジェ！最初にここで記念写真を撮る人が多いです。そして2階に上がると、そこには今日までのカップヌードルに関する展示物がずらっと並んでおり、どのようにしてインスタントラーメンが生まれたのか、安藤社長の苦悩や発想とともに分かりやすく学ぶことができます。

さらに上の階に上がると、今度は日清のインスタントラーメンを実際に作ることができるブースがあります。ここは特に人気があり、小麦をこね、のばすところから商品を手作りできたり、スープや具材を好みで選んで世界で一つだけの“オリジナルカップヌードル”を作ることができたりします。他にもカップヌードルが出荷されるまでの過程を体感できるアスレチック（入場は小学生以下）や、そこでしか買えない様々な商品が売っているお土産屋さんもあります。老若男女問わずどんな方でも楽しみながら学べるので、ぜひインスタントラーメンという分野でのクールジャパンを体感しに、カップヌードルミュージアムに足を運んでみてはいかがでしょうか？



・日本丸メモリアルパークの魅力 松山もこ（まつやま もこ）



日本丸メモリアルパークはランドマークタワーの前に広がっている広場です。そこには、「日本丸」というとても大きな船があります。この広場は坂になっているため、広場の芝生を駆け回るだけで、いい運動になります。日本丸メモリアルパークのいいところは、まだあります。それは、広場の坂になっている一番上に行くとも景色がいいんです！カシの木と似た形の木や、観らん車など見えるものはたくさんあります。それは、みなとみらいならではの絶景です！ぜひ日本丸メモリアルパークに行ってみてください。わたしは、日本丸メモリアルパークが大好きです。

・歴史だけでなく、未来の世界にも残り続ける、ドックヤードガーデン  
山本未来（やまもとみらい）



私が育ったまち、横浜は歴史的建造物と近未来的な建物が調和し、緑や花があふれる美しいまちです。そんな横浜のシンボルは、ランドマークタワーです。

ランドマークタワーの建っている場所は、もともと造船所でした。その造船所である、「旧横浜船渠第2号ドック」は、日本に現存する商船用石造りドックとしては、最も古いものです。そんな貴重なドックを残そうと復元されたのが「ドックヤードガーデン」というものです。今回私がオススメするのが、この「ドックヤードガーデン」です。



ドックヤードガーデンは、今たくさんの飲食店に囲まれています。家族や友人とわいわい楽しめるにぎやかな場所になっています。

そして夜には「プロジェクションマッピング」が開催されています。私も家族とあの大人気映画の「STAR WARS」のプロジェクションマッピングを見たことがありました。あまりに大迫力すぎてびっくりしました。また、歴史ある「ドック」で最新のプロジェクションを見ることができるのが不思議で、おもしろかったです。みなさんもぜひ行ってみてください。

#### ・大さん橋からの景色 平石莉子（ひらいしりこ）



私が紹介するみなとみらいスポットは「大さん橋」です。大さん橋は約130年前に前身となる鉄棧橋が完成し、6度の建設・増改築を経て2002年に完成した、横浜港における国内および国外客船のターミナルです。

大さん橋の最も特徴的なところは、客船ターミナルでありながら、屋上が公園として市民や観光客に24時間解放されていることです。屋上は環境に優しいウッドデッキ仕上げで、芝生の緑地もあります。海に浮かぶ雄大なくじらをイメージさせる外観から、「くじらのせなか」として親しまれ、大型客船の入出港時には多くの人で賑わいます。

大さん橋は横浜港に突き出しているため、大観覧車「コスモクロック21」や赤レンガ倉庫、ランドマークタワー、ヨットの帆をイメージしたヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル、また反対側には横浜ベイブリッジといった、みなとみらい地区を象徴する観光名所を一望できます。



私が特にオススメするポイントは夕方の景色です。夕日に照らされたみなとみらいの背景に浮かび上がるように見える富士山はとても美しく、きっと1日の疲れも吹っ飛びます。

みなとみらいの景色を一枚の写真に収めるなら、大さん橋がオススメです。ぜひ行って、横浜で過ごした思い出を写真に残してみてください。

---

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港150周年・都筑区制15周年の節目にあたる2009年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学5年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、取材に行き、記事を書いています。



2019.10.19 2020.03.31 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## ★ようこそ！横浜へ ①みなとみらいおすすめスポット編



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回は、視点を変えて、英国代表チームのみなさんにぜひ訪れてもらいたい、横浜市や都筑区のおすすめスポットを紹介させていただきます。

今は外出がなかなかできない時期ですが、英国代表チームのみなさんが来年事前キャンプにいらしたときは、ぜひ参考にいただければと思います！

それでは、ジュニア記者によるレポートをお楽しみください。

---

## 月岡結菜（つきおかゆいな）



私は、都筑区のすてきなところをしょうかいします。都筑区には、人気ランキング一位の国際プールやいちご狩りなど、スポーツできる場所から気分転換できる場所まで、幅広くいろいろな場所があります。大きなショッピングモールなどもあり、多くのお店が並んでいるので、みなさんも足を運んで自分が好きなものや、お店を見つけてみて下さい。



私が一番おすすめしたいのは、それぞれの場所やけしきがきれいだということです。たとえば、みなさんも行くかもしれない国際プールのすぐ近くにある山田富士公園にはちいさな山があり、その山をのぼると、都筑区を一望できるところがあります。そこから見る景色は、絶対に忘れないと思います。そして中川駅には、おしゃれな歩道橋があり、ドラマの撮影にもつかわれたりもしています。ほかにもたくさんのきれいな、オシャレ、面白いがいっぱい見つかります。時間があったらぜひ行ってみてください。みなさんには日本で全力を尽くしてほしいです。オリンピック・パラリンピックに向けてがんばってください。おうえんしています。



## 菊池直希（きくちなおき）



2019年7月の取材では、迫力のあるかついい練習を見学させていただきありがとうございました！選手のみなさんは、僕が思っていた以上に優しく、ユーモアがあふれる方ばかりで、交流できたことが、とても楽しかったです！

みなさんは、都筑区で気に入っているところがありますか？

ぼくは、たくさんのショッピングセンターがある中で、田んぼや畑、緑道など、たくさんの緑に囲まれたこの都筑区は、本当に暮らしやすいと思っています。

英国には中華街があるということを調べて初めて知り、驚きました。僕たちの住んでいるこの横浜にもとても大きな中華街があるので、ぜひ行ってみてください！

この取材を通して、オリンピック・パラリンピックでは日本のチームだけではなく、英国代表チームの皆さんも応援してみようと思いました！ GO GB！！

## 田中希和（たなかきより）





私は、GOGB取材に参加したことで、英国との関わりについて、より詳しく学ぶことができました。2019年には、ジャパンパラ水泳競技大会、英国大使館、今年度は、英国事前キャンプ取材に参加させていただきました。この2年間でオリンピック&パラリンピックに関係するさまざまな方とふれあい、国や言語を超えて話すことができてすごくうれしかったです。

私は、英国自体に行ったこともないし、文化やスポーツなどあまりわからないことがたくさんありました。でも、実際に英国文化を体験することで、知識を深めることができました。文化の違いや似ているところを探したり新たな発見もたくさんありました。

私は、今まで海外の方とふれあう機会があまりなかったけれど、取材をしたことで、親近感を持ち、一生懸命練習に励んでいる選手たちを見て勇気をもらえました。英国代表選手もオリンピック・パラリンピックに向けて頑張っていると思います。

### 清水麻緒（しみずまお）

私は、幼稚園の頃からずっと大好きな水泳をやっています。私にとって水泳とはとても身近なものです。2019年の夏、横浜国際プールで実際にオリンピックに出場する英国代表選手のみなさんの練習を見たり、水泳をやるうえで日々心がけていることを聞いたりすることができ、とてもいい経験になりました。そして、毎日12km~14kmを泳ぎこなし、自分のコンディションによって、食べるものも工夫しているところなどが真のプロなのだなど、しみじみ実感しました。

私はジュニア記者として英国大使館の取材に行き、英国のおもてなしや文化に触れました。そのことで、英国への親しみを覚え、興味が深まりました。水泳や陸上など様々な競技で活躍している英国代表選手の輝いている姿が見られることを、心待ちにしています。厳しい練習を乗り越えて、たくさんのメダルを獲得できるよう応援しています！

### 月出幸輝（つきでゆきてる）



都筑区は、小松菜の生産量が日本一です。小松菜の特徴は、どんな料理にもあうことです。例えば、ペペロンチーノやちりめんジャコと干しエビの炒め物、豚肉とキクラゲの炒め物などです。小松菜の栄養素はカルシウム、鉄分、ベータカロチンが多いです。特にカルシウムと鉄分は野菜の中で、トップクラスです。

また、都筑区の方は、とてもやさしく親切なので、困ったことがあったら、何でも気軽にきいてみてください。

ぼくは、都筑プールのスイミング教室に通っているのですが、オリンピックでは水泳の試合を見に行きたいです。応援しますので、頑張ってください。

## 廣田心乃（ひろたこのの）



英国代表選手のみなさん。私たちの住んでいる横浜市都筑区には、みなさんに紹介したいポイントがたくさんあります。その中でも代表的なおすすめポイントは、都筑区で収穫される野菜と緑豊かな公園です。都筑区で収穫される野菜の旬は、主に、春はキャベツ、夏はキュウリ・ジャガイモ・トマト・ナス、秋はキャベツ・ナス、冬は小松菜・ほうれん草・大根・里芋・人参です。

その中でも一番は小松菜がおすすめです。平成 15 年には都筑区での小松菜の収穫量が全国で一位になったそうです。英国代表選手の皆さんにも是非おいしい小松菜をたくさん食べてほしいです。

次のおすすめポイントは都筑区にたくさんある公園です。都筑区の公園は緑にあふれていてとてもきれいです。中でも都筑中央公園は、春になると公園に植えられている桜の木が満開になります。とても美しい桜の花を見ながら広い公園を散策するのも楽しいです。他には山田富士公園もおすすめです。ここには梅の木があり、桜とはまた違う魅力があります。梅にはとても日本らしさを感じられます。英国代表選手の皆さんにも日本を感じながら公園散策を楽しんでもらいたいです。オリンピックが無事に開催されて、英国代表選手の皆さんと都筑区で会えるのを本当に楽しみにしています。

---

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、取材に行き、記事を書いています。



2020.11.06 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

【横浜市】『ホッチポッチミュージックフェスティバル 2020』出演の、ジェラルド・ミュヘッドさん取材！英国伝統の楽器バグパイプの音色、衣装に触れて【2020年10月】



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！



昨年度までは英国をお迎えするホストタウンとして、英国の文化やスポーツ、人に触れて、さまざまなレポートを記事にしてきました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人との直接の交流が大変難しくなっています。

そんな中、10月18日(日)「ホッチポッチミュージックフェスティバル2020」の音楽イベントが新市庁舎1階のアトリウムで開催されました。

今回は、このイベントにご出演された英国出身のジェラルド・ミュールヘッドさん取材してくれました。ジェラルドさんは、英国の伝統的な楽器、バグパイプの演奏者です。それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

## ■バグパイパーのジェラルドさん

モロー・プリンセス

バグパイパーのジェラルドさん取材しました。ジェラルドさんがバグパイパーになった理由は、おじいさんもバグパイパーで、バグパイプは身近な存在だったからでした。また、ジェラルドさんが絵のコンテストで優勝し、チケットをもらって行った演奏会のときに、バグパイプの演奏を聞いて、その伝統的でカッコいい音色を好きになったからだ、と言っていました。

私は、「バグパイプは何種類あるのか」と聞いてみました。昔は、なんと世界中に30種類ものバグパイプがありましたが、現在は、アイルランド、イングランド、スコットランド、スペインのバグパイプの4つが有名で、受け継がれています。ジェラルドさんが演奏するスコットランドのバグパイプの重さは4kg以上あり、とても重いそうです。

ジェラルドさんは、エリザベス女王の前での演奏経験やジブリのゲド戦記の音楽を担当するなど、さまざまに活躍されていて、すごいなと思いました。私も将来ジェラルドさんのようにみんなに尊敬される人になりたいです。



子ども記者みなさんとジェラルド氏

## ■バグパイプって面白い！

宮下愛紗（みやしたあいさ）

私たちは、日本で活躍するバグパイプ奏者の、ジェラルド・ミューヘッドさんの演奏を聴き、そしてインタビューをしました。バグパイプとは、リード式の民族楽器で、笛の取り付けられた数本の音管を留気袋につなぎ、ためた空気を押し出すことでリードを震わせて音を出す楽器のことです。

インタビューではたくさん質問をしました。

Q：どうしてバグパイプを始めたのですか？

A：理由は2つあります。1つ目は、祖父がバグパイプをやっていたことです。2つ目は、私は昔、絵を描いていて、絵画のコンテストで入賞した時にバグパイプコンサートのチケットをもらい、聴きに行って、すてきだと思ったからです。

Q：ネットに、ジェラルドさんが2006年にジブリのサウンドトラックで演奏したと書いてありましたが、何のジブリ作品だったのですか？

A：「ゲド戦記」です。

Q：かぶっている帽子は、何でできているのですか？

A：ダチョウの羽です。この帽子をかぶると大きく見えるため、軍隊も使っていました。

Q：バグパイプを演奏するのは、難しいですか？

A：はい。ピアノのように、どこを押したらどの音が出ると決まっておらず、息の量を自分で調節して吹くので難しいです。

Q：バグパイプの、女性奏者はいますか？

A：昔はいませんでした。しかし、今はいます。全体の95パーセントは男性です。女性奏者は男性奏者より少し小さめのバグパイプを吹きます。

バグパイプの種類は、スコットランドのほかに、アイルランドとイギリスとスペインのものがあるそうです。また、バグパイパーの正装の帽子とベルトについているシカのバッジは、「大きくて強い」男性の象徴を表しているそうです。シカが多く生息するスコットランドならではの、文化を感じました。

## ■流麗なるスコットランド

橋本みなみ（はしもとみなみ）

10月18日に、横浜市新市庁舎のアトリウムで開催された「ホッチポッチミュージックフェスティバル」で、ジェラルド・ミューヘッドさんのバグパイプ演奏を聴いてきました！

ジェラルドさんは伝統的なスコットランドの衣装、キルトを着て登場しました。金糸で縁取られた黒のジャケットの上に、赤いタータンチェックの布を巻き付け華やか、かつシックな装い。合間にバグパイプの仕組みや衣装の説明をしながら5曲演奏されました。

スコットランドの伝統的な「勇敢なるスコットランド」は勇ましく、格調高い曲でした。実際に戦場で演奏されていた曲だそうです。あの有名な「アメイジンググレイス」の演奏も聞くことができました。美しい旋律と会場を包む音色に、まるでスコットランドの草原にいるような心地よい感覚を覚えました。

ジェラルドさんは、毎年この「ホッチポッチフェス」に出演されています。しかも黒いファーの帽子をかぶり最高レベルの正装で演奏しているそう。ぜひ来年の「ホッチポッチ」に来てスコットランドの文化に触れてみてください。



伝統的な衣装を纏い演奏するジェラルド氏

#### ■ すてきな伝統を残していくことの大切さ

林愛凜（はやしあいら）

10月18日ホッチポッチフェスティバルで、ジェラルド・ミュヘッドさんがバグパイプを演奏するのを見て、取材しました。ジェラルドさんがバグパイプをはじめたきっかけは、おじいさんがバグパイプをやっていて、すごく身近な存在だったことからです。ジェラルドさんは昔とても絵が上手で絵のコンテストでとてもよい賞をもらい、その賞品でバグパイプのショーのチケットをもらいました。そのショーをみて、自分もやってみたいとおもったのです。その後ジェラルドさんは、国際バグパイプコンテストで最優秀賞を受賞し、エリザベス女王の前で演奏するまでになりました。スタジオジブリの映画「ゲド戦記」でも演奏をしているのだそうです。来年のオリンピックでも演奏をしたいと話していました。

次にバグパイプについてです。バグパイプには、大きく分けて4つのタイプがあるそうです。昔は30タイプあったといわれています。1番有名なのはスコットランドのバグパイプです。ものすごく重く、4kgもあるそうです。2つ目はアイルランドのバグパイプです。このタイプはすわって、わきでふくろをおして演奏します。3つめはイングランドです。とても小さく音も、小さな音がでます。4つめはスペインです。

ちなみにジェラルドさんの演奏しているバグパイプは、1番有名なおスコットランドの物です。「バグパイプは男性のイメージが強いですが、女性はいるのですか？」と質問しました。

昔はいなかったのだけれど今は、95%が男性で残りの5%が女性だそうです。女性は指が細く、すばやく動かせるので、いま期待されているそうです。



私はこの取材を通して伝統とはなにか知ることができました。 こういった大切なものを残していきたいとおもいました。



ジェラルド氏の説明に興味深々の子ども記者

#### ■バグパイプ演奏会の感想

峯岸りさ (みねぎしりさ)

私は、バグパイプを演奏するところをはじめて観ましたが、迫力がすごくて驚きました。チャンスがあれば1回は演奏してみたいです。私は、音楽が好きなのでとても楽しかったです。日本のみんなを楽しませてくれる演奏会を計画してくれてありがとうございました。

#### つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして 取材に行き、記事を書いています。

2020.11.12 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## 【横浜市】『ローズ&ガーデンマーケット 2020』 日本で活躍されている、英国人ガーデナーのマーク・チャップマンさん取材！【2020年11月】



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区で活動している、「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

新型コロナウイルス感染症拡大のため、横浜市でも様々なイベントが中止されていましたが、10月31日（土）、11月1日（日）に「秋のローズ&ガーデンマーケット2020」が青空のもと、感染症予防策を十分にとったうえで日本大通りにて開催されました。

横浜市オリンピック・パラリンピック推進課は、このイベントに「英国事前キャンプ・ホストタウンPRブース」を出展！ご来場の方々にご協力頂き、英国代表チームへ応援ムービーを送るための写真撮影を行いました。

今回は、ジュニア記者の皆さんがブースの出展の応援とともに、英国出身のガーデナー、マーク・チャップマンさん取材してくれました。マークさんは、このイベントに花を添えた「ひつじのショー」と「ガーデンベア」のウェルカムガーデンの制作者です。

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。



英国と横浜をつなぐ親善大使「ひつじのショーン」のスタチューも展示



ガーデンベアとジュニア記者

● 「気持ちでつながる秋のローズ&ガーデンマーケット」 山本 未来（小6）

10月31日、日本大通りで「秋のローズ&ガーデンマーケット2020」が開催されました。日本大通りは出店でとても賑やかでした。

そこで私たちは、最初に英国事前キャンプ・ホストタウン PR ブースを手伝いました。そのブースの目的は、東京オリンピック・パラリンピック英国の代表選手に「一緒に頑張ろう！」というメッセージを含め、メッセージボードを持って、イベント会場に来た方に写真を撮ってもらうというものです。私たちは、会場で、子どもから大人の方まで、いろいろな方に声をかけたり、グッズを組むことに大忙しでした。少し疲れましたが、たくさんの人の笑顔を見て嬉しい気持ちになりました。





英国事前キャンプ・ホストタウン PR ブース準備中！



サイレントメッセージ用の写真撮影テスト中！

また、私たちは、ガーデンデザイナーのマーク・チャップマンさんに取材することができました。マーク・チャップマンさんが担当したウェルカムガーデンは、いろいろな大きさや色の植物がバランス良く並んでいて、とても綺麗でした。英国・横浜の親善大使の「ひつじのショーン」やマスコットの「ガーデンベア」が引き立っていて素敵でした。

マーク・チャップマンさんは、4歳の時からイギリスでおじいさんと一緒にお庭のお手入れなどをしていたそうです。大学の時には、デザイナーの勉強をしていたそうです。そして、いまから23年前に仕事で日本の長野県に来たそうです。マーク・チャップマンさんは、ヘッドガーデンというガーデンデザイナーのトップであり、いろいろな知識を教えてください、興味深かったです。日本の気候を知るため、ガーデン日誌を毎日つけていたと聞きました。その日の気候や温度などいろいろな情報を書き留め、後で見返し、もっといいお庭を目指しているそうです。私は、学者さんみたいだなと思いました。そんな、マーク・チャップマンさんは「ガーデンデザインは言葉では表せないけど、気持ちではつながれます。ひつじのショーンと同じです」と教えてくれました。その言葉を聞いて、ブースで手伝いをしてお客さんの笑顔を見て、言葉がなくても気持ちで、言葉以上につながることもあるのだなと思いました。

僕たちは、日本大通り・横浜公園で行われた、「秋のローズ&ガーデンマーケット 2020」に行き、マーク・チャップマンさんにお話を伺いました。チャップマンさんは、ヘッドガーデナーという、お仕事をしています。ヘッドガーデナーは、ガーデニングをした後の花の手入れまで手がけるすごいお仕事です。チャップマンさんは、イギリスで生まれ、4歳の時からしていたガーデニングと、イギリスの大学で学んだデザインの知識を生かし、ヘッドガーデナーになったそうです。日本には、もう23年も住んでいて、とても流暢に日本語を話される方でした。

そんなチャップマンさんにインタビューをしていて、僕が驚いたのは、日本に住み始めてからの数年間、毎日天気をメモしていたということです。日本の気候はイギリスの気候と全く違い、植物を育てるにあたって、日本の気候の特徴をしっかりと理解しなくてはならなかったそうです。そのために毎日毎日天気をメモしていました。

もう一つ僕が面白いと思ったのは、チャップマンさんが好きな植物です。その植物とは、「Gunnera(グンヌラ)」です。日本では、オニブキとして知られています。約1億5千万年前から生息していて、世界で最も大きな葉をつける植物とされています。この植物が好きだということを知り、さすが何年もガーデニングをしてきた方だなと思いました。今回の取材で、全く知らなかったガーデニングとガーデナーについて知ることができました。とても大事な仕事だということを知り、ガーデナーのことについて、もっと伝えていきたいと思いました。

● イギリスからやってきたガーデニング博士、マーク・チャップマンさん取材 廣田心乃（小6）

今回のローズ&ガーデン GOGB 取材では、英国事前キャンプ・ホストタウン PR コーナーのお手伝いや、マーク・チャップマンさんへの取材をし、とても印象に残りました。チャップマンさんはガーデニングデザイナーです。小さいときからガーデニングにかかわっていました。ガーデニングデザイナーは、植物に合った土のことや、土地の環境、気候、その他たくさんを知っていないとはいけません。チャップマンさんは、植物の名前からその植物の出身地がわかると言っていました。すごいなと思いました。



英国出身のガーデナーのマークさんにインタビュー

日本には、仕事で来たのがきっかけです。その後日本に暮らすようになり、20年になります。日本に来て一番印象に残った仕事は何かを聞いてみました。それは、長野県の白馬村スキー場のガーデンデザインだったそうです。チャップマンさんが大切にしているのは、「植物の勉強と未来のことを考える」ということです。

チャップマンさんはこのすべてのことをジェスチャーをしながら、わかりやすく教えてくれました。私は植物のことをあまり知らなかったのですが、チャップマンさんの取材を通して植物について少し知ることができて、さらにもっと植物のことを知りたいと思いました。私は今回の取材を通して、植物を大切にしていきたいという気持ちが強くなりました。

### 感想+++++

マーク・チャップマンさんは、イギリスから日本に来て、お庭を作ることになってから、日本の気候のようすをすべて書きとめたということです。たとえば「気温の差が激しい」「しとしと雨が多い」などです。そこからガーデナーとしてのさまざまな情報を得ていることがすごいと思いました。マーク・チャップマンさんは、良い庭を作るために一生懸命メンテナンスしたり、豊富な知識を得ている事がわかりました。そして、その庭の未来を考えた上でのランドスケープデザインにしたり、庭で花々を長く楽しむ為に球根を植えるなどしていることに感動しました。（月岡 結菜）

私はローズガーデンを見て、デザイナーのマーク・チャップマンさんはスゴいなあと思いました。花で「ひつじのショーン」や「ガーデンベア」などを飾っていて、お花でこんなにキャラクターをもっと可愛く出来るなんて思ってなかったからです。（モロウ・プリンセス）



ショーンを囲んでマークさんとジュニア記者で記念撮影！

### つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港150周年・都筑区制15周年の節目にあたる2009年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学5年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして取材に行き、記事を書いています。



2020.11.12 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## 【横浜市】『共生ホストタウン・バリアフリーマップ作成まちあるき体験』誰にでも優しいまち「横浜」であるために【2020年12月】



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区で活動する「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回は、東京 2020 大会を契機とする共生社会の実現に向けた理解促進の取組として、横浜市内で大会会場となる横浜スタジアム周辺及び聖火リレーセレーション会場となる赤レンガ倉庫周辺について、つづき・MM ジュニア記者の子どもたちに、バリアフリーマップを作成するためのデータ収集の調査に参加して頂きました。

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。



バリアフリー調査のための車いす体験

2020年12月13日、私たちジュニア記者は、オリンピック・パラリンピックのとき、聖火リレーの会場の一つとなる赤レンガ倉庫周辺の、バリアフリーマップ作りのための調査に参加しました。マップを作る前に、NTTクラリティで働く障がいのある方より、当事者の立場から、「心のバリアフリー」というお話をオンラインで聞きました。

今回のお話は、視覚障がいの方と身体障害（車いす）の方からで、初めて聞く話ばかりでした。お話の中で、国内で障害を持っている方は13人に1人ということを知りました。



心のバリアフリー講座を熱心に聞く様子

また、障がいの中にも色々な種類があることが分かりました。例えば視覚障がいだと、全盲で全く見えない人や、弱視で視力が弱く少し見えづらい人がいるということです。パソコンに書いてある文字やメールの内容などを音声読み上げで確認しているということで実際に聞かせてもらいましたが、音声再生はすごいスピードで驚きました。

また、目の見えない方に方向を教えるのに時計の文字盤で表すとよいそうです。手助けするときには、何か最初に声をかけてから助けて欲しいと教えてもらいました。

午後、私たちは「象の鼻チーム」「万国橋チーム」「新港チーム」「馬車道チーム」の4つに分かれてまちあるきをし、マッピーズ (MaPiece) を使って調査をしました。マッピーズ (MaPiece) とは、バリアフリーマップをつくるためのアプリです。このアプリでは、タブレットなどを使って、横断歩道の傾斜 (勾配) を計ることもできます。傾斜が2度から3度だと車いすでも通れるそうです。でも、5度ぐらいだと車いすにとってはきびしいと教えてもらいました。また、段差が2センチメートル以上でもバリアとなってしまいます。



マッピーズ (MaPiece) を使ってまちあるき

さらに信号の有無、音のなる信号機がついているか、方向制限があるか点字ブロックがあるかなども、タブレット上の地図上に入力しました。

チームの中で、それぞれ車いすに乗って車いす視点から見る人、車いすを押す人、紙にまちあるきで気がついたことを記録する人、マッピーズ (MaPiece) に入力する人などに分かれて、みんなで交代に担当しました。後半からは、車いすを自分自身で押して移動する体験もしてみました。私たちは必要とされた範囲の調査を無事終えることができ、最後に調査で感じたことを大人のみなさんの前で発表しました。

地図が完成して、世界中の人に役立つといいなと思います。

調査、取材：

(つづきジュニア記者) 浅谷 凜果、小川 悠樹、澤田 篤紀、長谷川 路彰、林 愛凜、宮下 愛彩、  
森 結花、モロウ プリンセス、山田 万里奈

(MM ジュニア記者) 小林 廉、橋本みなみ、山本 承太郎、山本 未来

### **みんなの感想++++++**

車椅子を始めて乗ってみて気づいたことは、私たちには、気づかないほどの低い段差も乗り越えるのが難しいということです。そして、車椅子に長時間乗っていると車に乗った時のように酔ってしまいました。バリアフリーマップを作ってみてたくさんの発見があったし、障がいがある人の気持ちを知ることができました。

(山田 万里奈 小6)



ぼくは、今回のバリアフリーの取材でたくさんの発見をしました。そのひとつが公衆電話に車イスが入れないことです。公衆電話の中には、スロープもなく、段差があり、幅が狭くて車イスが入れないものもありました。公衆電話は、緊急時に必要なものだから、まちなかに設置されている公衆電話はなおさらバリアフリー化してほしいと思いました。

(澤田 あつき 小6)

まちなかにあるきでは実際に車椅子に乗りました。そうすると今まで当たり前のように思っていたことが障害者には大変だということが分かってきました。例をあげると、まちなかにある掲示板です。私たちはふつうに見やすい高さだと思っていますが、車椅子に乗っている人は少し高く感じ、昼などは日が反射して見えにくいです。また他に、横断歩道に信号があるか、そしてその信号は音が鳴るかなどいろいろなことを調べました。私は来年オリンピックが開催され、今回の調査が役に立つことを楽しみにしています。

(浅谷凜果 小5)



障害当事者と一緒にまちなかにあるきをして学ぶことが沢山ありました

今回私はとても貴重な体験をしました。障がいのある方々の大変さがわかり、現在のまちなかの状況も知ることができました。ゴミや落ち葉がじゃまになることもあると知り、私もバリアフリーにつながるようなゴミ拾いなどをしていきたいです。

(林 愛凜)

みなさんは、いつも通っている道路や横断歩道に不便さを感じていませんか？私たちは、「バリアフリーマップ作成のためのまちなかにあるき」に参加させていただきました。

私は実際に、車イスに乗ってみました。すると後ろから押してもらうときは楽だったけれど、いざ一人でこぐとなると、歩いているときは気づかない程度の道の傾斜でも、苦しかったです。また、道に設置されている自動販売機が高く、車イスではとても届きませんでした。普段、まちなかのバリアフリーは整っている方だと思っても、実際に障害者視点で考えてみると、まだまだバリアフリーは足りないところがあるなと思いました。これからは街のバリアフリーが進むといいなと思います。

(宮下愛彩 小5)



傾斜をはかるために地面において測定

実際に車椅子にも乗ってみて、馬車道駅から赤レンガ倉庫の周辺の「バリアフリー」と「バリア」を調査しました。

「この辺はバリアフリーが進んでいるエリアです」と事務局の方が言っていました。確かにその通りだったのですが、それでもまだ階段や音が出ない信号機など、バリアフリー化されていない所もありました。僕は横浜のすべてがバリアフリー化して、どんな障がいのある人でも、安心して外出できるようなまちになってほしいと思いました。

(長谷川路彰 小5)



バリアフリー調査後の振り返り。たくさんの気づきを各班で発表

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして 取材に行き、記事を書いています。

2021.03.06 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## 【横浜市】GO GBの活動を発表！こどもメディアシンポジウム 2021 in Yokohama【2021年2月】



横浜市では、英国の事前キャンプ練習会場「横浜国際プール」のある都筑区で活動している、「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回は、ジュニア編集局の皆さんが企画し実施した、「こどもメディアシンポジウム 2021 in Yokohama」における、GO GB ウェブサイトの取材など、自分たちの活動報告を含めた発表や展示等についてレポートしてくれました！

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

2月28日に、こどもメディアシンポジウム 2021 in Yokohama が横浜市役所のアトリウムで開催されました。

このシンポジウムは、こどもメディアの活動の魅力と価値をつたえたいという目的で開催されました。そして横浜で活動する、横浜市都筑区での「つづきジュニア編集局」と横浜市西区を中心とした「みなとみらいジュニア編集局」の活動を広く知ってもらうことも大きな目的です。シンポジウムでは、ゲストとして石巻や千葉、岩手、アメリカなどからも Zoom で参加していただきました。



当日はパネル展示も行いました。現在まで発行した新聞のパネル、各地域の新聞や活動資料などの展示の他、GOGB 関連のパネルも展示しました。東京オリンピック・パラリンピックで、英国のホストタウンとなっている横浜のことをお知らせするパネル、ジュニア記者も手伝って作成された、聖火リレーのコースの赤レンガ倉庫周辺のバリアフリーマップなどです。

コロナ禍のため入場制限される中での開催でしたが、おおよそ 80 人が会場でリアル参加し、そしてその様子を YouTube ライブ配信し 300 ビューがありました。

こどもたちが中心になって行われたこのシンポジウム。司会もみなとみらいジュニア記者の高校 3 年生、橋本みなみさんとジュニア記者出身で現在社会人の 21 歳になる百崎佑さん。こどもたちの発表の中ではオリンピック・パラリンピック関連の取材について以下のような発表がありました。



メディアシンポジウムの様子

#### ●発表者① モロウ プリンセス **Morrow Princess, Speaker**

私たちジュニア記者は、日本大通りで行われた、「秋のローズ&ガーデンマーケット 2020」のお手伝いをしました。当日 PR ブースに来てくれた人たちに、英国選手へのメッセージをおくる写真撮影をお願いしました。たくさんの方がオリンピック・パラリンピックを楽しみにしていて、写真撮影に参加してくれました。

また、秋のローズ&ガーデンマーケットのガーデンデザイナーのマーク・チャップマンさんにインタビューしました。チャップマンさんは花で「ひつじのショーン」や「ガーデンベア」などを飾っていて、お花でこんなにキャラクターをかわいくしているのがすごいと思いました。



Jr 記者が熱心に取材をする様子

●発表者② 林 愛凜 Airi Hayashi, speaker

私たちジュニア記者は、オリンピック・パラリンピックのとき聖火リレーの場所となる赤レンガ倉庫周辺の、バリアフリーマップ作りのための調査に参加しました。私たちは4つのチームに分かれてまちあるきをし、マッピース (MaPiece) を使って調査をしました。マッピースとは、バリアフリーマップをつくるためのアプリです。今日、地図が完成したので会場に置いてあります。ぜひ見てください。世界中の人に役立つといいなと思います。



GOGB の PR や共生社会の取組みに参加した成果展示の様子

その他にも、石巻日日こども新聞や四街道こども記者クラブからの活動報告の他、コロナ禍での緊急メッセージとして、こどもたちにコロナ禍でのアンケート調査報告などもありました。今回のシンポジウムは、反響が大きく、事前記事は東京新聞、横浜経済新聞、事後記事は、朝日新聞や読売新聞などにも取り上げられました。

以下、こどもメディアシンポジウムにおけるジュニア記者たちの感想です。

僕は、こどもメディアシンポジウムに参加し、他の地域のジュニア記者の発表を聞き、ある共通点に気付きました。それは、この活動を通して自分たちのまちのよいところを知ってもらおうとしていることです。ジュニア記者の活動が大切なことだと改めて実感しました。その後、本物の記者の方が僕たちに質問する「記者会見」がありました。僕は、がんばってすべての質問に回答しました。僕は、都筑区のことをさらに知りたいし、都筑区をたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。

小川悠樹（オガワユウキ）



Jr 記者の OGOB がオンラインで参加し、トークセッションを実施

シンポジウムでは、ジュニア記者の発表に対して、本物の新聞記者の方々が質問をしてくれました。私もいろいろな考え方ができるようになりたいとシンポジウムを通して思いました。

田岡 優月（タオカユツキ）

コロナ禍のなかでも、ジュニア編集局では Zoom などを使ったオンライン取材や、感染対策をした取材を行っていました。これからもこんな状況だからできない、行えないと思わずに、工夫して取材したいです。

広瀬 文香（ヒロセフミカ）

このコロナ禍でもこのような発表をすることができてうれしかったです。自分の発表が思い通りに行きました。記者のみんなも楽しめてよかったなと思いました。

峯岸里沙（ミネギシリサ）

石巻日日こども新聞の太田さんの発表で、震災にあったこどもたちがワークショップで作品に「死」と書いたことが、こども新聞の始まりだと知りました。こどもたちが、震災後も心が深く傷つけられているのを知り、このようなことも取材したいと思いました。

モロウ プリンセス





オンラインで繋ぎ発表をする Jr 記者

私は今回のシンポジウムで本当の記者会見のような場所で発表できたことが楽しかったです。また、学校や塾以外の新しい友達もでき、楽しく過ごせました。発表前の準備ではみんなと協力しながらでき、本番では達成感がありました。

浅谷凜果（アサヤリンカ）

いろいろな人に、こども記者について知ってもらうことができよかったです。また、今回のシンポジウムで、話すということが上手くなったような気がします。楽しかったです。

林愛凜（ハヤシアイリ）

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして 取材に行き、記事を書いています。

2021.03.24 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

すべての人をつつみこめる社会へ～英国パラリンピアンからのメッセージ「共生社会について考える」オンラインセミナーを視聴して

## 英国パラリンピアンからのメッセージ ～共生社会を考える～ オンラインセミナー



■日 時:2021年3月19日(金)  
17:30～18:30

■講演者:スージー・ロジャース氏

横浜市市民局オリンピック・パラリンピック推進課  
協力:ブリティッシュ・カウンシル

UK IN JAPAN  
GREAT PARTNERSHIP



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区で活動している、「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

去る3月19日、ブリティッシュ・カウンシル協力のもと、英国のパラリンピアン、スージー・ロジャースさんに生出演いただき、共生社会について考えるオンラインセミナーが実現しました。セミナーにご参加いただいたジュニア記者さんに、今回のセミナーについてレポートをしていただきましたので、ぜひご覧ください。

英国のパラリンピック金メダリストのスージー・ロジャースさんの「共生社会について考える」をテーマにしたオンラインセミナーに参加しました。1時間ほどの短い間でしたが、幅広い分野のお話を聞くことができ、貴重な体験でした。

スージー・ロジャースさんは、バタフライと自由型を得意とする水泳選手でした。ロンドン五輪では3部門で銅メダルを獲得し、次のリオ五輪では金メダルを獲得し、銅メダルも2つ獲得するという華々しい功績をもつ人です。引退されてからは、「インクルージョン」についてグローバルに講演を行い、ブリティッシュ・カウンシルの障がい者諮問委員会のメンバーとしてや、障がいのある人をサポートする活動を行なっているそう。水泳選手として海洋生物や地球の生態系を守る活動も行なっているとのことでした。

「インクルージョン」とは、障がいのあるすべての人が教育、雇用、余暇、社会などあらゆる分野に参加することを確保し、そのために必要なサポートや体制を提供するという理念で、障がいのあるひと、ないひとと共生し、つつみ込んでいくという考え方です。ロジャースさんは、セミナーの中でこれをよく口に出していました。障がいのある人だけを特別扱いするのではなく、怪我をしている人や体調の悪い人、高齢の方や小さい子ども、妊婦さんも、そして私たちのためにもできるだけバリアを減らしていくべきだと思いました。

また、物や施設のバリアフリーだけでなく、心のバリアフリーも大切だと言っていました。心のバリアフリーを進めていくためには、多くの障がい者の人を知る機会が大切です。すると、パラリンピックで見ることができる、カッコいい選手たちは、私たちが障がい者のことを知る最初のきっかけになりうるのではないのでしょうか。いろいろな人が集まって協力するパラリンピックを理想の形（ロールモデル）とし、日常生活に役立てて欲しいと、ロジャースさんはメッセージをくれました。

私は2020東京パラリンピックのボランティア資格が残念ながらありませんが、機会があったらパラリンピックのボランティアに参加したいと強く思いました。

（橋本みなみ）

ジュニア記者から質問することができました。（広瀬文香）

Q.パラリンピック選手になったきっかけはなんですか？

A.私はパラリンピックの大会をよく見ていました。見る中で、すばらしいチャンスがあるのだということを感じていました。そして、ロンドンで開かれることになって、自分の国でやるなら、大会に出たいと思いました。そのために大会にでるために、とにかく一生懸命練習しました。



Q.金メダルを取るために工夫した事はなんですか？

また、金メダルを取るために苦労した事を教えてください。

A.怪我や病気が多く、それを克服していくことがたいへんでした。トレーニングをはげしくすると順調に練習していたと思ったら、急に病気になったりして、一貫して練習できないということは苦しかったです。大会と大会の間の4年間に実績を残すためにできることはすべてやったと言えると思います。そんな中、心の支えだったのは家族です。家族はどんなときも応援してくれました。自分ひとりではない、チームで戦っているという気持ちがいつもありました。そして、コーチやスタッフのサポートがあったからこそです。

今まで僕は、障がいのある方に出会ったとき、どう対応すればいいかをむずかしく考えすぎていたと気がつきました。どうやって対応すればいいかを考え過ぎていたために、距離を置いてしまっていた。

今回、スージー・ロジャースさんが話していたことでいちばん印象に残った言葉があります。「障がい者の障がいに目を向けるのではなく、その人自身に目を向けて接してほしい」という言葉です。このことを聞いて、これからはもっと障がいのある者の方々に、気軽に接していこうと思いました。差別や偏見のない社会になっていけるように、僕もできることを努力したいと思いました。

(長谷川 路彰)

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港150周年・都筑区制15周年の節目にあたる2009年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学5年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして取材に行き、記事を書いています。

2021.08.02 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## ジュニア記者による英国事前キャンプに関するインタビュー



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区で活動する「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回は、ジュニア記者の皆さんが、キャンプディレクターであるティム・ジョーンズさんと、英国の事前キャンプ地となっている国際プールの吉田館長にお話を伺いました。

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

## ■ 国際プールで見つけたオリンピック精神 / 山本承太郎

「GO GB」は、オリンピック・パラリンピックにおいて、英国の事前キャンプ地である横浜市、川崎市、慶應義塾大学が掲げた合言葉です。「GO」は「頑張れ」、「GB」はイギリス本土がある島の名前「グレートブリテン」を意味しており、イギリス選手団を応援するメッセージとなっています。

今日、私たちは都筑区にある横浜国際プールに赴きました。先程も述べましたが、横浜市は英国のホストタウンを担っていて、横浜国際プールはオリンピックの競泳、飛込の事前キャンプ地となっています



キャンプディレクターのティムさんにオンラインでインタビューする様子

取材の前半は事前キャンプのディレクターとして来日していたティムさんに、リモートでお話を伺いました。ティムさんの主な仕事は ①若い人材を発掘し、②選手他たちにベストなスケジュールを立てることだと言います。選手を含め、英国チームは慶應義塾大学の日吉キャンパスに宿泊しているそうです。ここで一人の記者が選手の食事の内容について質問をしたのですが、これに対しティムさんは、日本食とイギリスの食事をミックスしていると答えたので、私は驚きました。少しでも慣れた食事を摂った方が選手のパフォーマンスに良い影響を与えるのではないかと考えていたからです。しかし、お話を聞いて、オリンピックの意義として「スポーツを通じた人間育成」のほかに「世界平和」があることを思い出しました。もちろん本番で良い結果を出すということも必要ですが、それと同じくらい多文化を理解することも平和への一歩として大事だと気づかされました。ちなみにティムさんの好きな日本食はギョーザでした。

後半は横浜国際プールの館長である吉田さんのお話を聞きました。想像よりも明るく親しみやすい方でした。キャンプ地としての準備は約5年前から始まっていて、横浜市や都筑区の職員や、旅行会社の方と協力してサポートしています。ただでさえ選手たちの要望に合った環境づくりが求められるのですが、今年はCOVID-19対策のため、さらに多くの配慮が必要となったそうで、大変だと感じました。しかし、そのような私の感想とは裏腹に、横浜国際プールがキャンプ地に選ばれたことについて吉田館長は『非常に光栄です！「国際プールはメダルが取れるプール」となれば良いですね』と笑顔で答えていました。このような状況での開催だからこそ、その中心にいる人たちには吉田館長のようなポジティブさが大切だと感じました。



## ■ 横浜国際プール取材しました！ / 折下陽琉

横浜国際プールは英国代表チームの事前キャンプ地になっています。私たちは、オリンピック期間中の7月28日、横浜国際プールの館長の吉田文雄さんと英国代表競泳のコーチをしているティムコーチにお話を伺いました。

横浜国際プールは、国内最大級のプールです。プールは床の高さを調節することができます。一番深いと3.5メートルの深さにすることができます。



約四千席の観客席があり、長さ50メートルのメインプールは、冬は床が設置され、体育館として使われます。変更をするときは、ひび割れがないかなど、念入りなチェックをしているそうです。メインプールのほかに、5メートルの飛び込みダイビングプールとサブプールがあり、サブプールは50メートルのプールを25メートル2つに分けることができます。

横浜国際プールでは、コロナ対策に気を使っています。体調管理、検温、消毒、換気、三密対策をしています。館長の吉田さんは、国際プールで練習している英国選手がメダルをとると、自分のことのようにうれしくなる、と話してくれました。

ティムコーチは、かつて選手をしていて、選手時代には、一日に6時間、6キロほど泳いでいたそうです。水泳を通して世界中を旅しているそうです。今回コロナの影響で、英国から日本に来るのが大変だったそうです。

日本の食べ物で好きなものは餃子だそうです。

今回取材をして、プールの床が変わることを知らなかったので、驚きました。

英国選手のお話は聞けませんでした。ディレクターお話を聞いて、選手の日頃の練習量はすごいと思いました。オリンピックで英国選手が活躍したら嬉しいです。

## ■ 『「支える」は温かくする』 / 山本未来

今回は、2人の心強いオリンピック競技のサポーターの方々に取材しました。1人目の方は、私たちのまち(横浜)に事前キャンプで訪れた英国選手のキャンプディレクターであるティム・ジョーンズさんです。

英国事前キャンプディレクターとは、大物選手のたまごのような若い選手を発掘することをする方です。キャンプディレクターの役割はそれだけではありません。選手の皆さんが競技でベストを出せるようにサポートすることが1番大事な役割です。ティム・ジョーンズさんは、元英国代表の水泳選手であり、元オリンピックのコーチをやっていたりしました。ティム・ジョーンズさんは、選手とコーチ両方の経験者だからこそ選手のベストを引き出せるのだなと思いました。

イギリス代表の水泳選手の皆さんは、1日に多くて6時間も練習をしているそうです。そのため、ティム・ジョーンズさん含め選手をサポートする皆さんは、選手がベストを出せるようにするためいろいろな工夫をしていました。食事のメニューを考えたり、日本人サポーターの人と選手の皆さんの居場所を完全に分けて、オンラインでのやりとりを行うことでコロナの感染者を抑えたり。とても大変だなと思いました。

最後にティム・ジョーンズさんは、「自分が強いと信じてレースに集中するのが大切だ」と教えてくださいました。私は、人生のレースも前向きに進んでいくのが大事なのかなと考えました。2人目の方は、英国事前キャンプ施設の一つである横浜国際プールの館長の吉田さんです。



吉田館長にインタビューする様子

吉田さんも、ティム・ジョーンズさんと同じ英国代表選手のサポーターです。国際プールを通して選手のみなさんにとっての最高のコンディションを提供していたのです。

例えば、国際プールでは5年前から準備・打ち合わせを、また2年前には事前キャンプの練習も行ったそうです。コロナ対策の面でもサーキュレーターなどの最新技術を用いて安心安全の環境が整えられていました。そのため、英国選手からも国際プールは事前キャンプ施設として好評でした。吉田さん自身も、英国選手の事前キャンプについて「とても光栄です」と話していました。



国際プールを見学の様子

そして、この横浜国際プールの施設には秘密がいっぱいありました。国際プールには 3 つのプールがあります。最大 3.5 メートルまでに中の水を入れたまま深さが変えられるメインプール・プール内の壁が動き 25 メートルプール 2 つにも 50 メートルプール 1 つにもなるサブプール・深さ 5 メートルもあるダイビングプール。どれも使う用途に合わせて細かく設備の設定を変えられるのです。

また、5 月から 9 月の間はプールとして使い、10 月から 4 月の間は、プールの底を平らになるまで上に引き上げ、床を取り付け体育館として使う。夏は水泳・シンクロ・とびこみの教室、冬は、サッカー・ダンス・テニスの教室なども行われています。つまり、一年中多くの人に利用されているということです。

最後に吉田さんは、私たちに特別なニュースを教えてくださいました。オリンピック終了後には、国際プールのロビーに英国選手のサインボードと今回の事前キャンプでの選手の様子を提示するそうです。是非また行きたいと思いました。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック。新型コロナウイルスにより大会が延期になったり、無観客で行ったりと今までにない新しいかたちでの開催となりました。パラリンピックはこれから開催されます。

また世の中では、開催に対する反対の声や政府の問題点などたくさんの方がネット上でもあげられました。たくさんの方のトラブルに見舞われましたが、私は今回 2 人の方にお話を伺ったことで「支える」ことは人の心を、そして世の中を温かくするのだなということを感じました。

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして取材に行き、記事を書いています。



## 東京2020大会を終えて、様々な場面で全力で頑張る姿に感動！！

横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区で活動する「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いています！

今回の東京 2020 大会は新型コロナウイルスの影響で、無観客開催となり、ステイホームが推奨されている中、自宅でテレビ観戦をしてくれたジュニア記者の皆さんが、それぞれの思いを記事にしてくれました。

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

### ■家族みんなで応援しました！ 内野 聖火（うちの せい）

私は都筑区にある横浜国際プールで行われる英国競泳チームの事前キャンプの選手を応援するために、北山田の地区センターでガラスアートを家族で描きました。ガラスアートは日本の名所や応援している絵をプールサイドに飾り、練習中の選手に見てもらいます。私は奈良の大仏と応援している子どもたちの絵を描きました。

取材当日にプールサイドに行った時にガラスアートが貼られていたのを見ました。選手の皆さんも見に来て、練習の励みになったそうです。そしてガラスアートを見てくれた選手が本番の大会で金メダルを取ってくれてうれしかったです。また都筑区で大きな国際大会があったらガラスアートを描きたいです。

オリンピック本番では、英国競泳チーム平泳ぎ 100m 男子を応援しました。応援したのは、リオオリンピックでも金メダルを獲得したアダム・ピーティ選手です。

試合ではスタート直後はあまり差がなかったのですが、折り返してから他の選手よりも圧倒的な強さで金メダルを獲得しました。力強い泳ぎが格好良かったです。

競泳チームは、オリンピックで4つ、パラリンピックでは8個もの金メダルを取りました！

私の父はオリンピック・パラリンピックのボランティアに応募し、選手の送迎を担当しました。ケニアの金メダリストのキプチョゲ選手やエルサルバドルの関係者を乗せて、運転したそうです。コロナでどこにも遊びにいけない中、私の家族は、オリンピック準備から本番まで、家族みんなで、楽しみました。

## ■「男子車椅子バスケット 日英の名試合」 山本 承太郎（やまもと じょうたろう）

私は8歳の頃からバスケットボールをやっていて、始めてから11年目になった今も高校の部活動でプレーしています。普段は日本のバスケットリーグであるBリーグやNBAなどをテレビで観るのですが、今年は4年に1回の（今回は5年ぶりでしたが）オリンピック・パラリンピックが開催されるということで、そっちばかりを観ていました。

特に私が熱狂した種目は車椅子バスケットです。日本が勝ち進んでいたという理由もありますが、普段身体に障害を持たない選手たちの試合しか観ない私は、驚きと発見と尊敬の念でいっぱいになりました。

男子準決勝で日本はイギリスと対戦しました。英国チームは世界大会の覇者にもなった車椅子バスケット強豪国の1つです。一人一人のプレースタイルがはっきりしていて、パス回しも素早く、日本が苦勞して得た得点をいとも簡単に、そして何度も取り返すところに凄みを感じました。結果は日本がなんとか勝利を収めることができましたが、日本が予選で負けたスペイン相手にイギリスチームは3位決定戦で白星を挙げています。なので、本当にどっちが勝ってもおかしく無い試合だったと思います。

私は車椅子バスケットについてこれまで書きましたが、通して今回のオリンピック・パラリンピックはどちらも、多くの様々な人々を熱狂させてくれました。英国選手やスタッフの皆さん、感動をどうもありがとうございました。次の冬季も頑張ってください！

## ■個性豊かなパラリンピック 橋本みなみ（はしもと みなみ）

オリンピックが終わり、8月24日に行われた開会式で東京パラリンピック2020は始まりました。東京2020開会式・閉会式4式典総合プランニングチームクリエイティブ・ディレクターを務めた栗栖良依さんは、みなとみらいにある「象の鼻パーク」を活動拠点にして障がいのある方とアーティストとのコラボ商品などを開発する「SLOW LABEL」のディレクターを務めている人です。「象の鼻パーク」は散策でよく訪れる場所なので、今回の式典はとても身近に感じました。出演されたみなさんが、それぞれの個性を出した自由なパフォーマンスをしていました。オリンピックの式典より壮大で圧倒され、あっという間の式典でした。

この式典を横浜のアーティストが関わっていると思うと、とても誇らしかったです。そして会場にいる選手全員を応援したいという気持ちになりました。

さて、このパラリンピックで見つけた素晴らしくカッコいい選手がいます。英国のパラサイクリスト、サラ・ストーリーさんです。彼女は先天性の左手の発育不全という障害を持っています。以前はパラスイマーでしたが、現在はパラサイクリストとして4大会で12のメダルを獲得しています。私が心を打たれたのはサラさんの勇気ある、貪欲な姿勢です。27歳から新しい競技を始め、努力を重ね、現在はパラスポーツを飛び出し健常者の自転車競技の大会にも出場しているそうです。いつかオリパラ両方出場を叶えてくれるかもしれません。彼女の、常に挑戦しパワーアップする姿は、尊敬せざるを得ません。

今回のパラリンピックでは、数々の選手たちが素晴らしく、個性豊かなプレーを見せてくれてコロナ禍に明るい風を吹き込んでくれました。出場した選手みなさんに感動と興奮をありがとうと伝えたいです。

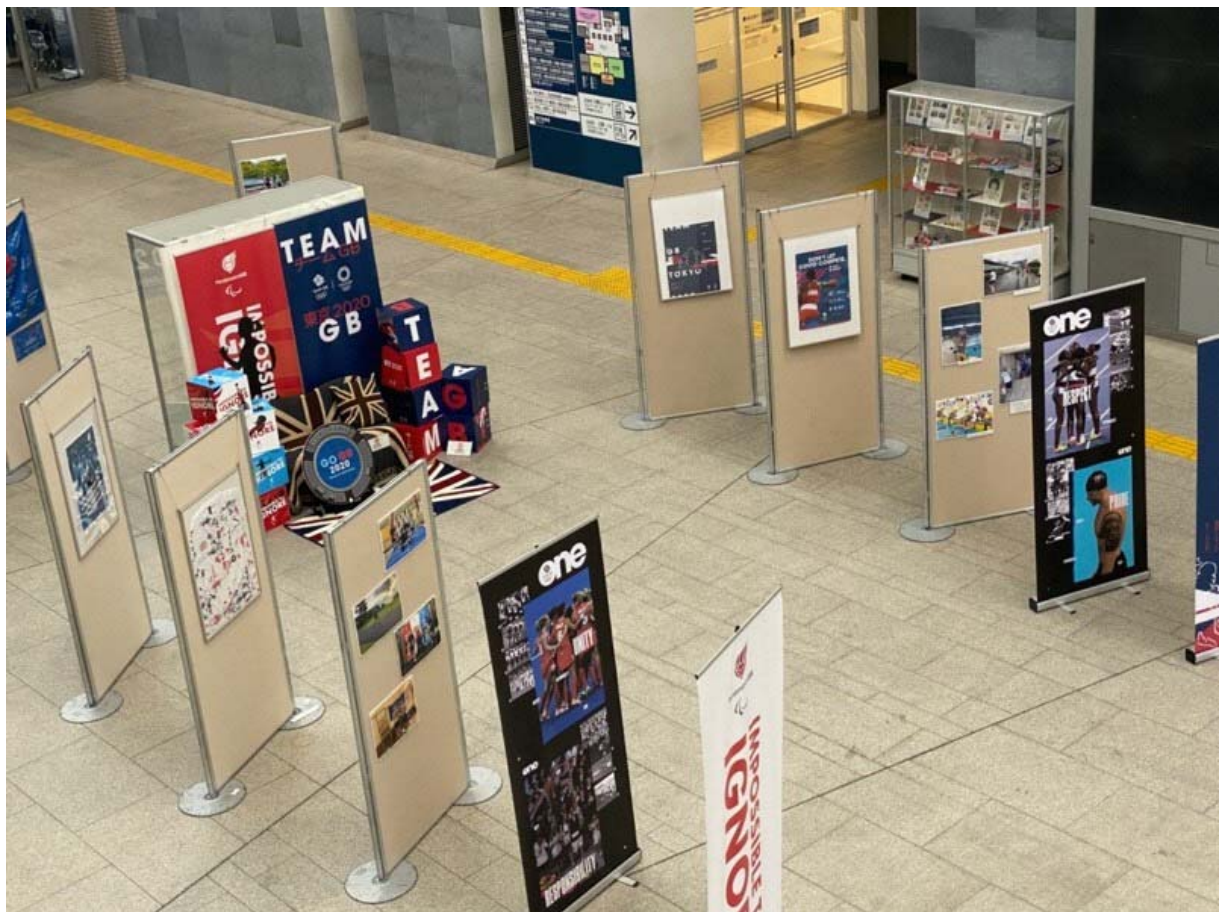
## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして 取材に行き、記事を書いています。

2021.10.14 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## 「GOGB2020 TEAM GB パネル展」



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区で活動する「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回は、都筑区総合庁舎で行われた GO GB 2020 Team GB パネル展の様子を、取材してくれました。それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。



都筑区にある横浜国際プールでは東京オリンピック・パラリンピックのイギリスの水泳選手の事前キャンプが行われました。オリンピック・パラリンピック終了後の10月に都筑区総合庁舎1階の区民ホールで「GOGB2020 TEAM GB パネル展」が行われたので取材をしてきました。

区民ホールにはキャンプ地や競技会場、選手村で使われたり、飾られたりしたフラッグやソファーなどが展示されていました。市民局の方に解説してもらい、その展示品フラッグやソファーはイギリスから持ち込まれたことを知りました。選手のみなさんが気分を高めるために持ち込まれたのでしょうか。イギリス国旗のラグはかっこよかったです。



他にも今回のオリンピック・パラリンピックでの競技写真やユニフォームも展示されていて夏の感動がよみがえりました。



これらの展示品は、日本大通りにある都市発展記念館に保存されると聞いて、大事にされることがわかり、安心しました。コロナ禍で選手と直接会えなかったのが残念でしたが、実際に使用されたものが見られたのでうれしかったです。



## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして 取材に行き、記事を書いています。



## 横浜ホストタウンサポーター感謝会@イギリス館



横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区で活動する「つきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回は、ジュニア記者のみなさんが、先日、山手にあるイギリス館で行われた横浜市ホストタウンサポーターの感謝会を取材してくれました。

それでは、ジュニア記者による取材レポートをお楽しみください。

私たちは先日、英国代表選手をサポートするボランティアの方々（以下、サポーターと略）の感謝会を見学させていただきました。

向かったのは、元町中華街駅から坂を上がったところにある、イギリス館です。イギリス館には多くの部屋があって、二階には寝室のような当時を復元した部屋もあり、私たちの控室となっていました。

一階には、さまざまな展示物が並び、選手のサイン入りのものもありました。感謝会は、展示室の隣の部屋で行われました。この感謝会には28人のサポーターが参加しました。サポーターの中には、大学生や自分達の親よりも年上の人もありました。サポーターに応募したのは、自宅が国際プールの近いからという人やイギリスに何年か住んでいたから恩返しをしたいという理由の人もありました。



感謝会では、スクリーンでスライドを使った振り返りやプレゼント付抽選会、そして最後に、英国のオリンピック・パラリンピック関係者の方々からのメッセージがありました。

スライドでの振り返りによると、サポーターの活動は、個別オリエンテーション、オンラインセミナー・説明会を含めて52日間に及んだそうです。

抽選会では、サポーターの方々が、事前に引いておいたくじの番号順に前に出て一言話した後に、プレゼントをもらっていました。ちなみにそのプレゼントは、英国国旗の横断幕を切って作ったバッグに入れられていました。

サポーターの方々からは、こんな話が出ていました。

（サポーターの活動を通して）「経験が豊富になった」「英語の勉強になった」「得るものが大きかった」。また、「自分が役に立てるかわからなかったけど、今は誇らしい気持ちだ」「選手団からコロナの感染者が出なくてほっとした」ということを話している方もいました。他にも「国を越えてスポーツが楽しめることを知った」「英国と日本両方応援できて楽しかった」「英国の金メダルを取った選手のインタビューで、サポーターのおかげで金メダルが取れた、と言ってもらえてうれしかった」などの声がありました。

印象に残ったこととして「選手が階段を二・三段飛ばしで歩いているのを見て、さすがアスリートだなと思いました」と話す人もいました。

英国関係者の方々からのメッセージでは、「とても素晴らしかった」「感謝している」など感謝の言葉がたくさん伝えられていました。

今回色々なコロナ対策をしたそうで、選手が泊まるホテルは選手以外の人は入れない所を通ったりして他の人とは会わないようにしていたそうです。

選手は、横浜スタジアム・横浜国際総合競技場・横浜国際プール・等々力陸上競技場・横浜カントリークラブ等を使っていました。中でも、横浜カントリークラブでトレーニングをしていたと聞き、驚きました。

お話をきいて、オリンピック・パラリンピックサポーターをやってみたくなりました。いろいろな大会のサポーターがあるので18才になったら、やりたいです。

記事：井上慎太郎 宮下愛彩 赤津百音

写真





## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。

今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして取材に行き、記事を書いています。

2022.01.13 事前キャンプを知ろう | こども記者レポート

## つづきジュニア編集局 活動の振り返り

横浜市では、英国の事前キャンプ地「横浜国際プール」のある都筑区の「つづきジュニア編集局」の皆さんに、「英国を知る」ためのレポートを書いていただいています！

今回が最終回ということで、これまで 4 年に渡り取材してきた集大成として、ジュニア記者の皆さんに活動を振り返った感想を記事としてまとめていただきました。

それでは、ジュニア記者によるレポートをお楽しみください。

★2021年延期していた東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。私たちMMジュニア記者はオリパラに関する取材をいくつか行ってきました。特に横浜市は英国代表チームの事前キャンプ地となっており、“GO GB（がんばれ、英国）”を合言葉にした活動を中心に、PRしている方々やキャンプ地の方々などにお話を聞いたり、イギリスの文化を学んだり、バリアフリーマップをつくるなど、多様な取材をすることができました。

COVID 19の流行のため、完全な形で大会開催は実現できませんでしたが、そのような制約の中でもベストを尽くすために日々励む選手、そして工夫を凝らしてオリパラを支える方々は立派で、その現場の熱量を少しでも垣間見て肌で体感できたことはとても貴重な経験だったと思います。

また、取材を振り返って、日本生まれ日本育ちの私にとって、東京オリンピック・パラリンピックは異文化に触れ交流できる大きな機会であるということに再認識しました。

多文化理解は“世界平和”への第一歩です。普段、海を越えた遥か向こうの場所で暮らしている人と、今私は話しているのだ（まだまだ通訳さんを介してですが…）、と考えると、なんとも言えない緊張感があり、胸に奇妙な高鳴りを覚えました。今回、自国で世界中の人々に出会えるという最大のチャンスが無観客に終わってしまったことは残念ではありますが、今回の取材から、この先自分が自立したら、今度は生の迫力あるオリンピック・パラリンピックを再取材したいと思いました！

山本承太郎（やまもとじょうたろう）

★オリンピック・パラリンピックの聖火ランナーが走る予定だった、赤レンガ倉庫の周辺のバリアフリーマップづくりに参加しました。その調査に参加できたことで、障がいのある方たちのことを知り、いままでも何気なくまちをみていた視点が変わりました。パラリンピックの競技に関心を持つようになり、障がいのある方たちが健常者を超えるパワーで競技をしているのを見て感動しました。

小川悠樹（おがわゆうき）

★ジュニア記者として取材したことで、よりオリンピック・パラリンピックに興味を持ち、大会を見ました。もっとイギリス選手の方たちと交流したかったです。それができなくてとても残念でした。

長谷川路彰（はせがわみちあき）

★私はバグパイプのジェラルドさん取材して英国の文化について知ることができました。バグパイプの演奏はすばらしかったです。イギリス文化に興味をもったので、これからもイギリスの文化や特色などを学んでいきたいです。

宮下愛彩（みやしたあいさ）

★オリンピック・パラリンピックを記者として取材し、知らない名前の競技をたくさん知りました。パラリンピックの競技がいろいろな分野で分かれていたりして、見どころがあってあきなかったです。

橋本芽依（はしもとめい）

★イギリスチームの取材がインターネット会話になってしまったことが残念でした。でもイギリス選手を間近に感じることができてよかったです。

折下陽流（おりしもひりゅう）



★私はオリンピック・パラリンピックの水泳のキャンプマネージャーのティムさんに取材をしてキャンプ中の食事やトレーニングのことについて教えてもらうことができ、貴重な体験をしました。

赤津百音（あかつももね）

★私は、いくつかのオリパラに関する取材、英国代表チームに関する取材に参加しました。現在から3年前弱に行われた「500Days to Go! フェスティバル ～東京 2020 開催まであと 500 日！～」では義足体験や車椅子バスケット体験をし、義足の不安定さや狭い場所で車椅子を動かすことの困難さを知りました。アルケミストさんの「あの空」と Foorin の「パプリカ」歌唱ステージも見ることができ、非常にパワーをもらいました。

英国のヘンリー王子と対面しお話しする機会もありました。私たちは東京パラリンピック出場を目指す車椅子バスケットの選手たちとヘンリー王子の交流に同席しました。ヘンリー王子は一人一人とアイコンタクトをとり笑顔で会話をしてくれ、その英国紳士ぶりに圧倒されました。また、スコットランドバグパイプの演奏者、ジェラルドさんとのインタビューも強く印象に残っています。黒と赤いタータンチェックでシックな装いのジェラルドさんが奏でた「アメイジンググレイス」の美しい旋律は素晴らしいかったです。

東京オリンピック 2020 はコロナウイルスのため、テレビで試合を観戦するという形でしたが、英国代表選手たちが登場すると「横浜に来てくれたんだろうな」と親近感を持ち、オリンピックが行われている実感を持っていました。この取材を通して、スポーツの力と素晴らしい英国文化をリアルで学ぶことができました。貴重な経験をありがとうございました。（橋本みなみ）

## つづきジュニア編集局って？

つづきジュニア編集局は、横浜開港 150 周年・都筑区制 15 周年の節目にあたる 2009 年に都筑区の記念事業として始まりました。今では、都筑区だけでなく横浜市全体に目を向け、小学 5 年生から高校生のジュニア記者が、子どもの目線と力をフルにいかして、取材に行き、記事を書いています。